好き。

梅花空木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
好き。

【Ｎコード】
Ｎ０９８０Ｈ

【作者名】
梅花空木

【あらすじ】
仙人界で同僚の普賢と太公望。しかし、太公望は全て自分で解決しようと抱え込んでしまう。そんな彼に普賢は・・・。

君にこの気持ちを伝えたら君はどんな反応をするのかな。
僕を軽蔑する？
冗談だろうと笑う？
ねぇ、気づいて。
お願い、気づかないで。
相反する気持ちが僕を乱す。
「よく降るなぁ。」窓越しに外を見れば冷たい雨が降っている。
「望ちゃん、こんな日に限って修行するって意気込んでたけど、風邪ひかないかな。」どうせなら自分もと言ったのに、あの人はそれを許してくれなかった。

「普賢、開けてくれ。」少々荒いノックと共に彼の声。
「望ちゃん！？大丈夫？入って。すぐ身体を拭いた方がいい。」
「すまぬのぅ。修行場から普賢の家が近かったから寄らせて貰ったのだ。」申し訳なさそうに、濡れているのなんか気にしていないような口調で太公望が言う。
「そんなこと後でいいから！そうだ！お風呂に入っちゃったほうが早いね。ほら、急いで。」

「…で？なんで今日に限って1人で修行なんてしたの？」聞きながら温かいシチューと桃のタルトを出す。なんだか、問い詰めるような口調になってしまった。
「別に、おぬしとの修行が嫌だったわけではない。ただ1人になって、よくこれからのことを考えたかったのだ。今後は、せこい手が通じる相手もそういないであろうしな。」シチューを口に運びつつ、太公望が言う。
「…おぬしは食わんのか？美味いぞ。」

「あっ僕はいいんだ。ちょっと食欲ないし。」言ってから、なぜ本当のことを言ってしまったのか、後悔した。
「そういえば、なんとなく元気がないな。どした？身体の具合でも悪いのか？」
「そんなんじゃないよ。平気だから気にしないで。」慌てて否定する。
しかし、僕が狼狽えているのを見逃す太公望ではない。
「…では、恋でもしたか？」
「っ！？」驚きで声にならない。なんで、君は他人のことだと、こんなに敏感なんだろう。
「図星か。」にやりと太公望は笑う。
「うっ…。望ちゃんはさ、誰かを好きになったことってある？」
「うぅむ。そもそも恋愛感情というものがよくわからないのだ。友達で良いではないか。」
「…友達よりも大切で特別な存在だよ。触れたいとか、尽くしたいと思う相手のこと。」
「…で？おぬしのその好きな相手とはどういうやつなのだ？」
「うーん、仲間思いで、皆から信頼されてて、心の広い優しい人かな。」
「ほぅ。よくできた人物なのだな。」感心した様子で太公望がうなずく。ほら、全然自分の事だと思ってない。
「…ねぇ。少しは、自分のことかもとか思わないの？」なんだかイライラする。
「…は？」この自分のことに対してニブくなるところも好きだけど、今は厄介極まりない。
「ごめん。なんでもない！忘れて。」寝室へ行き、自分の言動に落ち込む。
あんなふうに言いたかったんじゃないのに。こんなんじゃ伝わるはずない。…そうだ。自分はこんなにも想ってるのに、望ちゃんの気持ちは見えなくて、不安で八つ当たりしちゃったんだ。

「…普賢？入るぞ。」寝室のドアのところに立つ太公望は微笑んでいた。
「望ちゃ…。ごめん。」恥ずかしくて下を向いていると、
「なぜ謝る？おぬしの気持ち嬉しいぞ。」と優しく太公望が言葉を紡ぐ。
「だって…変だよ。男が男を好きなんて。軽蔑したり、笑ったりしないの？」なんだか自分が惨めで涙が溢れてきた。
「そんなことないさ。よく知らんが、恋とは気づいたらしてるものなのだろう？変なことなんてないぞ。」太公望は僕の前に屈み、僕の涙を優しく手で拭う。
「それにな？普賢。わしも、おぬしに触れたいと、ずっと一緒にいたいと思ってたのだ。これが恋というものなのだな。…変か？」僕は首を振ることしかできず、でも精一杯変じゃないと否定する。
「そう。性は、ただのくくりでしかない。気にしなくて良いのだ。」言いながら僕を包み込む様に抱きしめてくれた。
「望ちゃん…大好き。」
「わしも普賢が大好きだぞ。」
そうしておでこを合わせてふたりで笑った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0980h/

好き。

2010年10月15日22時48分発行